

8月31日（日）午後7時

題材法話

○お盆の由来は？

お盆は、正式には「孟蘭盆（うらぼん）」といい、インドの古い言葉「ウラバンナ」を音写したもので、この上ない苦しみから救い出すという意味です。

これは、「孟蘭盆経」というお経の中に説かれていて目連尊者（もくれんそんじゃ）の物語がもとになつていて、その物語を簡単に紹介します。目連尊者は釈迦様の十大弟子の一人で、神通第一といわれた方で、その神通力で死んだお母さん、お地獄の餓鬼道で苦しんでいるのを知り、お釈迦様に母親を救い出す方法を尋ねたところ、お釈迦様は安居と呼ぶ夏の僧侶の勉強会で、百人の僧侶に対して供養をなさないと教えられ、目連尊者がその通り行つて、母

親を救い出すことができたという話です。

○物語の真意は？

この目連尊者の物語は、まるでお伽噺のように聞こえますが、実は大変深い意味があります。まず、目連尊者の神通力ですが、これは決して今でいう超能力といったものではなく、見る知恵、心の深みを見るというものであります。目連尊者は一人っ子で大変母親にかけがいが、と育つたのですが、知恵と感性に大変優れた若者であつたため、母親の反対を押し切つてお釈迦様のお弟子になつたため、母親は釈迦様を逆恨みして死んでいったのです。このことから、母親が今もつて悟りを得ることなく迷ひの苦しみの中に見抜いたと言ふことで

す。つぎに目連尊者の母親が餓鬼道に落ちたというところは、けつして目連尊者の母親に限つての問題ではなく、世の親、特に母親は、我が子かわいさにもものの道理を見失うことがあります。時として地獄行きの罪造りさえ犯してしまふということを説いていふのです。言い換えれば、私達は愛欲のなかでこの世を生きる限り、地獄行きの罪を犯さざるを得ない存在であるといふことです。そして最後に、お釈迦様の云う百人の僧への供養というのには、仏教の道理を得て、さとりに帰依するにより、世間の迷信をやめるといふことの表明なんでありまふ。その真実の道理の中で初めて全てが迷ひの中かとを救われていくということがあります。

○お盆は私自身の

仏縁でした

母親（先祖）を救うということは、この私がいま真実の世界へと生まれさせていたかどうか、まさに私自身の問題であることに気付けよというお諭しなんでありまふ。親こそ、実は私に真実を知らしめて下さつていふ仏さまの存在なんだといふことであるの私がい、一拝んではいるの私がい、実は拝まれていたといふことは、なんでありまふ。うことがつて、仏教徒、真宗門徒にとつてのお盆とは、先祖のためのもので、先づこの私自身の仏縁であることにまず気付かせていたことが大切であり、その中から先祖への感謝の気持ちも生じてくるはずで。○靈魂はあるのですか？

ところで、前回例会での

話し合いの席で、「お盆に霊を迎えるなど、よくいいますが、霊というものはあるのですか？」という質問を頂きました。大変難しい問題ですが、仏教徒、真宗門徒として大切な認識事項でもあると思います。

むかしから、肉体とは別に精神的実体として霊魂が存在する、という考え方は、現代でも一般的で、人間的なものをもつていて、人々の中には素朴な霊魂観念的なものがあるようです。

しかしながら、仏教では本来、心と肉体は相関関係であり、一方は不滅の実体（霊魂）、一方は滅の仮象（肉体）とはみず、心性（固定的ではない）といふこと（を基本として、霊魂という独立な存在を認めることはありませ

ん。ところが、伝統的な霊魂観念と、仏教でも霊魂の重層して、

存在を認めてきているかのように誤解されてきているようにです。

○それでは死んだら何もないのですか？

仏教は、霊魂のようには死後も不滅の存在として有る、という考えにも立ちません。何人も存在しないという考え方も存在しないという考え方もありません。縁起（因果）の道は、理を説きます。つまり、現在のわれわれの業（行）のわかれが、みずからの次のいのちを形成していくのです。これは科学者やインシタインの相対性理論の考え方と全く同じです。であるといわれており、また、作りがあって、人として今のち終えても必ず結果として、のちの世界があると説くのです。

つまり、死後の世界があるか、無いのか、というよりも、要は今この世界に在り

方が大切な問題なのであります。

「未来の果を知るには、現在の因を知れ」といわれるように、死後の世界を客観的にながめて議論することよりも、現在の私の実体を把握して最善を尽くすことこそが大切である、と説くのです。

親鸞様さまは、その最善が「南無阿弥陀仏」のお念仏のみ教えであると示してくだされたのです。

○余談ですが、幽霊はいますか？

「幽霊」はいいます。殺人を犯して服役する囚人の多くは、監房で恐怖に怯えるそうです。窓から差す木洩れ日にさえ怯えるそうです。私達の日常でも、少しやましいところとがあれば過敏になることがありませんか。

「幽霊の正体見たり、枯れすすき」と川柳にあるように、実は幽霊は私達の心の内に存在するので

す。

霊魂といったかたちでの幽霊の存在はあり得ません。が、自らが作った因により、結果としての幽霊が自らの心の中に存在するのには確かであろうと思います。

（例会住職題材法話より）